マテリアリティ

経営のマテリアリティ
https://www.sansha.co.jp/ir/materiality.html

三社電機グループは、社会課題や事業環境の変化によるリスクと機会を踏まえ、持続的な成長と企業価値向上に重要な7つのマテリアリティを特定し、中期経営計画「CF26」と一体で取り組んでいます。2025年度は、脱炭素化の進展、AI・データセンター需要の拡大、地政学リスクの高まり、サプライチェーン再構築など、事業環境が大きく変化する中、リスクと機会を継続的に評価しながら、各重点施策への取り組みを進めました。

今後も、社会課題の解決と持続的な企業価値向上の両立を目指し、マテリアリティを経営に統合した取り組みを推進していきます。

特定プロセス

事業環境分析	社会課題の抽出	重要課題の分析	運用と見直し
脱炭素や地政学リスクなどの事業環境変化を分析	SDGsや国際ガイドラインを踏まえ社会課題を整理	ステークホルダー視点と経営視点から重要性を評価	マテリアリティを経営戦略へ反映し、継続的に見直し

社会課題		マテリアリティ	中期経営計画重点施策	2033年の目指す姿
気候変動	事業を通じた社会課題解決	脱炭素社会、環境保護に貢献	カーボンニュートラルに貢献できる製品開発、SiC製品売上高比率10%へ	高効率電力変換技術で脱炭素社会の実現に貢献
急速な都市化	事業を通じた社会課題解決	インフラ整備と産業発展に貢献	グローバル視点で新規分野・新規エリアに進出	持続可能な社会インフラを支える技術基盤を構築
	事業を通じた社会課題解決	安心・安全の提供とサービスの向上	QCDの向上と顧客への付加価値の提供	安全性・信頼性の高い製品・サービスの提供
人口構造の変化	事業を通じた社会課題解決	モノづくりと品質の強化	品質管理強化、設計の標準化、生産自動化の推進	AIを活用した高効率なモノづくり体制を実現
	経営基盤の強化	生産活動における環境負荷の軽減	環境対応設備投資、CO_2削減、省エネの追求	環境負荷低減と資源循環を両立した事業運営を実現
	経営基盤の強化	ダイバーシティ推進と人材育成	多様な価値創造人材の育成、女性管理職比率向上、1人当たりの売上高・営業利益改善	多様な人材が活躍する自走型組織を実現
世界の分断化	経営基盤の強化	事業継続マネジメント（BCM）の強化	事業継続計画の見直し、グローバルサプライチェーンの改善	強靭な事業基盤と情報セキュリティ体制を確立